

日本キリスト教団

# 長崎銀屋町教会

## 『週報』

VOL. 127 NO. 50 2019年 3月10日

降誕節〈レント〉第1主日



【2018年度 聖句】「わたしは復活であり、命である」

ヨハネによる福音書 11章 25節

【2018年度 標語】「キリストの命を生きる」

### ～定期集会案内～

- |               |          |           |
|---------------|----------|-----------|
| ○主日礼拝         | 日曜日      | 午前10時30分～ |
| ○教会学校 幼小科・中高科 | 日曜日      | 午前 9時30分～ |
| ○聖書研究・祈祷会     | 水曜日      | 午前10時30分～ |
| ○夕べの礼拝        | 第2、第4金曜日 | 午後 7時00分～ |
| ○入門講座         | 随時       |           |

〒850-0854 長崎市銀屋町1-5 電話・FAX 095-823-0667

牧師：竹内款一 E-mail: ginyamachi-church@dream.jp

ホームページ <http://www.giocities.jp/ginyamachchurch/>

## 主日礼拝 次第

2019年3月10日 受難節〈レント〉第1主日

司式：藤澤裕子 奏楽：中尾恵美

前	奏		奏楽者
○招	詞	イザヤ書 35章 1~2節	司式者
○讚	詠	I-546	一 同
○交	読	詩編 10編 1~18節	〃
		(旧約：p841)	
○使徒信条		(讚美歌添付)	〃
○主の祈り		(讚美歌添付)	〃
○讚美歌		56	〃
聖書			
		ルカによる福音書 4章 1~13節	
		(新約：p107)	司式者
祈	禱		〃
○讚美歌		141	一 同
説教		「戸惑いをしりぞけて」	
		竹内款一牧師	
祈	禱		〃
○讚美歌		419	一 同
献金			〃
○頌栄		27	一 同
○祝後報			
		竹内款一牧師	
		奏楽者	
		司式者	

○の印がついた部分ではお立ちいただきますが、立つことの難しい方は座ったままで結構です。

★「讚詠 I-546」、「頌栄 27」  
「使徒信条」、「主の祈り」などは、  
座席に備え付けのものもあります。  
ご覧ください。

★「交読」は、一節ずつ  
司会者と会衆が、交互に  
読みます。  
最後の一節は全員で  
読みます。

★「讚美歌」は、拡大したのもの  
ございます。ご入用の方は  
受付にお申し出ください。

★「補聴器」、「点字聖書」も  
ございます。ご入用の方は  
受付までお申し出ください。

★礼拝堂2階には、  
フリースペースがあります。  
こどもの遊び場、礼拝中の授  
乳や、くつろぎの場としてお使  
いいただけます。

★何か分からない事がありましたら、  
お気軽に受付におたずねく  
ださい。

## ◇◇◇ 臨時教会総会 公 告 ◇◇◇

日時：2019年3月10日(日)礼拝後

場所：長崎銀屋町教会礼拝堂

議題：①2019年度宣教計画および年間標語・年間聖句に関する件

②2019年度行事計画に関する件

③2019年度会計予算に関する件

④役員選挙に関する件

⑤2019年度九州教区総会議員選出の件

⑥2019年度長崎地区総会議員選出の件 ⑦その他

※ やむを得ず欠席される方は、『委任状』を提出してください。



## 今週の祈り

- ◎すべての人にキリストの恵みと平和がありますように。
- ◎東日本大震災をはじめ、様々な災害で被災された方々に慰めと平安を。
- ◎礼拝に出席できない方をおぼえて、主の恵みと平安を。

## 本日の教会学校

- ◇幼小科・中高科合同  
説教 大岩 厚 奏楽 大岩しのぶ  
(9:30～ 記念館2F)

## 本日の礼拝当番

森 富美 大岩 厚 山住けい子

## 本日の予定

- ◇2019年度《臨時教会総会》  
※昼食(弁当 400円)をいただいた後に行います。
- ◇臨時役員会(総会后)  
※現役員の方々と新しく選出された役員の方々で行います。

## 次週〈3月17日〉教会学校

- ◇幼小科礼拝 (9:30～ 記念館1F)  
説教 竹内款一 奏楽 大岩しのぶ
- ◇中高科礼拝 (9:30～ 記念館2F)  
説教 奥野政元 奏楽 中尾恵美

## 次週〈3月17日〉主日礼拝

【受難節[レント]第2主日】  
説教：「強い力とは」竹内款一牧師  
聖書：ルカ福音書11章14～26節  
交読：詩編140編2～14節  
讃美歌：472, 377, 475, 頌栄27  
【司式】今村 直 【奏楽】西 眞弓  
【礼拝当番】  
森 富美 実藤容子 中尾恵美

## 次週〈3月17日〉礼拝後の予定

- ◇ティータイム ◇聖歌隊練習
- ◇2019年度「長崎地区総会」14:30～  
所：大村教会 森 富美さんと竹内牧師が議員として出席します。

## 今週の予定

### ◇聖書研究・祈祷会

3月13日(水) 10:30～12:00  
ルカ福音書18章1～14節  
司会：竹内貴子

### ◇友愛八幡町保育園 卒園礼拝

3月14日(木) 10:30 礼拝堂

【牧師予定】▶11日(月)：鎮西学院チャペル、日本基督教団と沖縄キリスト教団との合同50年を覚える集会、セクシュアル・ハラスメント公開研修会 ▶15日(金)…鎮西学院授業 ▶16日(土)…八幡町保育園卒園式

## 報 告

- ◎『信徒の友』(2019年度)購読の申込を受け付けています。  
1冊：586円、年間購読料：7,082円  
※申込窓口：販売部(大岩しのぶ)

### ◎3月定例役員会報告

- ▶新しい教会のFAX番号(3/13より)  
095-893-8662 (FAX)
- ▶メールアドレスも変更になった  
ginyamachi-church@dream.jp
- ▶4月よりインターネットプロバイダが、YahooBB からDTIに変わる。ホームページも変わり刷新する(3月中)。
- ▶販売部に信徒の友係が入り、信徒の友を販売部として取り扱うこととした。
- ▶聖歌隊の慰労会を3月30日(土)練習後に予定。
- ▶シオンの集いを3月24日(日)に行う。次年度のことについて話し合った結果を報告する。
- ▶分かち合いランチ：3月24日(日)に行う。
- ▶コピー複合機をRICOHに変更した。
- ▶受難週およびイースター(4/21)、定期総会(4/28)について協議。
- ▶次年度の世界祈祷日(3/6)は当教会が担当となる。
- ▶教会サポーター、礼拝受付、等々について検討を加え行っていく。

### ◎《熊本・大分地震救援募金》

ご協力をお願いいたします。  
※2018年度累計：104,662円(3/3まで)  
感謝をもって報告いたします。



五千人の共食とよばれる、この食事はどれほど鮮烈に記憶に残ったことが想像に難くない。最初に分け合ったものは“五つのパンと二匹の魚”でしかない。主イエスが分け合った食事は“人数”や“量”にばかり目が行く“増加”の奇跡のようにも見えるが、そうではない。

ただし、伝えられていることに、「どうして？」と思うところがある。「どうして」と人が言った場合、英語でいうなら「How to」や「Why」といった内容があるだろう。「五つのパンと二匹の魚が、どうしてこんなに増えるのか？」と考えても、早々答えは見当たらない。

だから様々な解釈がある。このように説明されたことを聞いたことがある。それによると、ここで食べ物が増えるような「奇跡」が起こったのではないという。つまり、そこにいた何千人もの人々は、本当は多少なりとも自分の食べ物をもってはいたはずだ。旅する主イエス一行を追ってきた人々であり、みな多くなくとも幾分かの食料を持っていた。そして、その只中で主イエスが裂いて、弟子たちに配らせたことが、多くの人々の懐にあるものを「分かち合い」へと誘ったという。主イエスに倣い、分かち合い始めると、皆が食べることができたという。

この解釈は、これとして大切な解釈だと思う。本当に、そこに集まった人々の一人一人が「分かち合う」気持ちで新たにしたら、それ自体が「奇跡」と言えるくらい、尊いからだ。私は、この解釈を否定しないし、そこにも真理契機がある。

しかしながら、この奇跡的な食事が起った“時”、物語られる“位置”について、目を向ける必要があると、私は思う。

直前には、「ヘロデ、戸惑う」(9:7-9)という箇所がある。そこで領主ヘロデがイエスに興味を持っていることが述べられている。そして、人々のイエスについての評判を気にしている。ある者は「ヨハネが死者の中から生き返った」と言い、ある者らは「エリヤが現れた」、「だれか昔の預言者が生き返った」とも言っている。ヘロデ自身は、ヨハネについては自分が首をはねたことをふり返りつつ、「いったい何者なのだろう」と、「イエスとは誰か」を思いめぐらしている場面がある。

そこで明らかになっていることの一つは、洗礼者ヨハネが領主ヘロデによって殺されてしまったことである。ヨハネはイエスに洗礼を授けた人である。その人が亡くなった。大きな力を持った者が、正義を求めて生きて来た一人の人を殺してしまったのである。主イエスご自身も悲しみを覚えたに違いない。あるいは、主イエスの後を追ってきて、様々に話を聞こうとした人々もそうだったかも知れない。

事実、その直後主イエスは「ベトサイダとい

う町に退かれた」(10節)とあるように、退いたのである。静かにしたかったかも知れない。平安を求めたかも知れない。

その主イエスを追って来た人々の心境も決して晴れ晴れとしたものではなかっただろう。その人々を見て、結果主イエスはまた語り出し、その時を人々と共にするのである。

そして夕暮れ時、そろそろ食事の時、あるいは帰る時だった。その時弟子たちの中には「群衆を解散させましょう」という者もいた。真つ当な判断のように思える。

けれども、主イエスはその判断には従わない。五つのパンと二匹の魚を裂きはじめる。そして、あなたがたで配りなさいと、奇跡の食事を始めて行くのである。

だから、主イエスが「どうして、この食事をしたのか」、つまり「Why」の部分、「なぜ、その食事をしたのか」が見えて来る。必ずしも良からぬことが世に起こってしまっている。力ある者が猛威を振るって、人を貶めることがある。人は本当の善き知らせはどこにあるのかと、戸惑っている。そのただ中で、主イエスは人を愛し、福音を分かち合い、成すべきことを成したのである。命を生かそうとする営みが始まるべきだと思っている。そこにこの食事の「Why」「なぜ」が隠されている。

パンや魚が増える不思議な現象に目を奪われると、核心が見えづらくなるが、“パンを裂くこと”をはじめ様々な食事の中に隠されている深層こそ、私たちは見つめるべきものだと思う。

さらに、イエスが裂かれたのはパンだけではない。言うなれば、イエスのご自身の命をこそ裂かれるのである。それは、人々の命を生かすこと、そこから力を得て新たに歩みだすこと。そして、この時の食事が、イエスがどんな方なのかを思い起させ、また生きるのに必要なものをそなえてくださったイエスの言葉と働きを思い起こさせるのである。そして、キリストたる主イエスそのものを思い起こさせるのである。

そして、このおびただしい群衆と一緒に目にしたのはこうだろう。持てる者も持たない者も神の国の一員であること。さまざまな病の中でうずくまるより他ない者たち、その人と共なる人々が、イエスを通して神の前に“人”として愛されたこと。死の現実の前に力なく横たえる者たちを立ち上げさせ、ユダヤ人に対しても異邦人に対しても、働くイエス。これらを見聞きした者たちが、共にこの食事に預かったのである。

私たちは、イエスが裂かれたものを分かち合う共同体である。それは、実に力を与えられる。キリストの命そのものである。